

第17回根室市創生有識者会議議事録（令和5年12月7日開催）

1. 開会

●事務局（川崎室長）

ただいまから、第17回根室市創生有識者会議を開会いたします。

出席者の報告

会議に先立ちまして、ご報告致します。

本日の出欠状況であります。ご配布の根室市創生有識者会議構成員名簿に記載のとおり16名中、13名の出席であり、宇井委員、川前委員、杉木委員の3名につきましては、所用により欠席されておりますことを報告いたします。

出席者の報告

開会にあたり、石垣市長よりご挨拶を申し上げます。

●石垣市長

皆様、本日は、師走を迎え大変ご多忙の中、根室市創生有識者会議にご出席をいただき誠にありがとうございます。会議の開催にあたり、一言、ご挨拶申し上げます。

委員の皆様には、日頃より市政の推進並びに本市の地域活性化のため、多大なるご支援、ご尽力を賜っておりますことに対し、深く感謝を申し上げます。

さて、本日の会議では、令和3年6月に策定しました第2期根室市創生総合戦略に掲げている「経済雇用対策」、「子育て支援」、「人材育成」の3つの政策パッケージの達成状況について、令和4年度の取り組みの効果検証を行うとともに、引き続き、地域の振興や発展に向け、安定した雇用、新たな人の流れ、子育て環境の充実を図り、誰もがこの街に誇りを持って住み続けられるまちづくりを進めるためにも、各施策の効果が最大限に発揮されるよう、総合戦略の一部改訂について協議をいただくこととしております。

この創生会議、ここ数年は、皆様の意見を賜りながら、関係人口の拡大をテーマとする取り組みを進め、その指標となるものがふるさと納税であり、令和4年度は、令和3年度からさらに83万人増となる累計350万人の方々から応援をいただきました。この成果を地方創生に最大限に活かし、関係人口から定住人口へと新しい人の流れを作り、「選ばれるまち」となるよう次なる戦略を進めていきたいと考えております。

最後になりますが、本日は、委員皆様から忌憚のないご意見をいただき、根室市創生の更なる推進に繋げて参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

2. 報告事項

●事務局（川崎室長）

それでは、これより議事に入りたいと思います。ここからの進行は、石垣市長にお願いいたします。

●石垣市長

それでは、議事に入ります。

本日は、報告事項3件、協議事項2件となっております。

会議は概ね 15 時 30 分までを目途に終了を予定しておりますので、ご協力の程、お願いいたします。

それでは報告事項、(1) 委員の改選について、(2) 根室市人口動態分析について、(3) 根室市市民意識調査報告書について事務局から一括説明願います。

報告事項 1

●事務局（川崎室長）

報告事項(1)委員の改選についてご報告いたします。

「根室市創生有識者会議開催要綱」第 2 条第 2 項において、構成員の任期は選任した日の属する年度の次年度末までと定められており、前回の任期は令和 3 年 12 月 9 日から令和 5 年 3 月 31 日までとなっております。

今回の委員改選にあたり「第 2 期根室市創生総合戦略」については、策定時から携わっていただいております委員の皆様にご意見をいただきながら取組を進めることが効果的であることから、すべての委員の皆様にご再任をお願いし、ご了承いただいたものであります。以上です

報告事項 2

●事務局（渥美主査）

それではお手元に配布しております「資料 2・人口動態分析」についてご説明いたします。

1 ページ目をご覧ください。人口と世帯数を表したものです。

本年 10 月末現在の根室市の総人口は 23,135 人となり、2015 年と比較し 4,481 人、年平均にしますと約 500 人ずつ減少している状況となっております。

2018-19 年と 400 人台で推移していた人口減少幅は、2020 年は 599 人、2021 年は 627 人、2022 年は 685 人と増加傾向にあります。2023 年は昨年同期(519 人)と比較しますと 411 人と減少傾向にあります。

また、2021 年から女性の流出者が男性の流出者を上回っていますが、総人口に占める男女比率は 2015 年から横ばいの状態が続いています。

2 ページ目をお開きください。

年齢 3 区分別人口の推移を見ますと、上記棒グラフの下層部分になりますが、0～14 歳の年少人口については、2015 年の 3,108 人から 2023 年 10 月末時点で 2,077 人へ減少し、また、上層部分になります 65 歳以上の老年人口については、2015 年の 8,437 人から 8,255 人へ減少しておりますが、高齢化率は 5.2%上昇していることから、少子高齢化が進んでおります。

また、生産年齢人口においては、2013 年に男性数が女性数を上回って以降、この年代における女性の減少が拡大し、生産年齢人口における男女の人口差は年々拡大しておりますが、2020 年を基準とした生産年齢人口及び老年人口は、根室市人口ビジョン推計値と比べ抑制されており、総人口に対しても抑制されていることがわかります。

3 ページをご覧ください。2015 年と 2022 年の人口ピラミッドを表したものです。

人口ピラミッドの形状は、少子高齢化の典型と言われている「つぼ型」が続いています。

年齢 3 区分の構成比においては、2015 年→2022 年にかけて、老年人口は全人口の約 3.1 割から約 3.5 割へ増加し、生産年齢人口は約 5.8 割から約 5.5 割へ減少、年少人口は約 1.1 割から約 0.9 割へ減少していることから少子高齢化が進んでいることがわかります。

また、合計特殊出生率の算定基礎となる年齢層の女性人口が大きく減少していることから、今後も少子化が進む可能性を示唆しております。

4 ページをお開きください。こちらのグラフは自然動態の推移を表したものです。

グラフのとおり、死亡数が出生数を上回る状況が続いており、その差は年々拡大している状況にあります。

5 ページをお開きください。

社会動態においては、都市への人口流出等により、年間で 300 人前後の転出超過が続いておりますが、現在においては、転入者と転出者のグラフの開きがほぼ同じ状況であることから、転出超過の厳しい現状は変わっておりませんが、社会減は大きく増えておりません。

6 ページをお開きください。こちらは、年齢 3 区分別で分析した内容となっております。

上段の転入者数の推移の表をご覧ください。男女共に 2022 年の 15～64 歳の生産年齢人口は、2021 年と比較し減少していることがわかります。

また、中段の転出者数の推移の表から、男女とも転出超が進み、前年比約 1.5 倍となっております。

7 ページをお開きください。こちらは、生産年齢人口を 5 歳階級別で細分化し、どの年齢層で増減が大きいのかを把握するものです。

2022 年は前年に比べ、男性の転入・転出者ともに増加しましたが、転入者が転出者を上回ったことから転出超過は改善しています。特に 20～24 歳、35～39 歳において転出超過が改善しています。

一方、女性は前年に比べ転入者が減少し転出者数も増加したため、転出超過数は増加しています。

8 ページをお開きください。こちらの表は年少人口を 5 歳階級別に細分化し、どの区分で増減が大きいのかを把握するものです。

表の下段の転出超過の表をご覧ください。2021 年と 2022 年の転出超過の比較において、2022 年は、男女ともに転出超過傾向にあることがわかります。

なお、年少人口の減少について、出生数の減少の要因以外として、家族での転出による影響が考えられるところです。

9 ページをお開きください。年齢階級別順位同数の時系列分析であります。

このグラフについては、経済産業省、内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局の提供データである RESAS を用いております。

左記のグラフについては、5 歳階級ごとにその階級の人口が 5 年後どのように移動したかを表した内容です。特に 10 代から 20 代前半の流出が大きいことがわかりますが、これは大学・専門学校等の進学を契機とした転出が考えられます。

また、ほとんどの年齢層で人口減少しているなか、25～29 歳の流入が大きいことがわかりますが、根室へ転勤される方で、特に公共サービスに関する職業の方が約 7 割を占めていると見込まれます。

10 ページをお開きください。

こちらでも RESAS のデータを利用したものであり、2022 年の社会増減の背景として、転入・転出先の上位となっている地方公共団体の傾向を把握したものであります。

転入・転出共に、札幌市が最も多く、次いで近隣の釧路市への移動が見受けられます。

11 ページをお開きください。

9 ページの年齢階級別純移動数の時系列分析の分析結果を踏まえ、転入・転出の多い年代である 20 代にスポットを当て、どの地方公共団体へ多く転入・転出しているのかを分析することで、転入を促進すべき、または転出を抑止すべき年代・属性を把握します。

この分析において、20歳代の転入・転出数の比率を見ると、男女とも転出超過となり、特に札幌市、釧路市への転出が顕著であることがわかります。

12ページをお開きください。こちらにも転入・転出の多い年代である20代未満にスポットを当て、分析したものです。

この分析においては、転入・転出数の比率を見ると、男女共に転出超過の傾向にあり、特に転出超過は札幌市、次いで釧路市となり、進学や就職によるものと考えられます。

13ページをお開きください。人口動態分析のまとめとなります。

こちらは、先ほどまでご説明しました内容を総括的に記載しているページとなりますので、説明を割愛させていただきます。

最後に、14、15ページについては、参考資料として年齢別人口および月別人口推移の表を掲載しております。以上で、説明を終わります。

報告事項3

●事務局（齊藤主査）

1ページをお開き願います。まず、調査の目的についてであります。

当市では、令和7年度を始期とする「第10期根室市総合計画」策定に向け、庁内組織の整備等を図り、計画策定作業を進めているところでありますが、「第9期根室市総合計画」及び「第2期根室市創生総合戦略」を策定し、将来のまちづくりの目標や将来像を定め、進捗度合いや有効性を逐次確認し、必要に応じて見直しを行っていくなど、実情に応じた対応が不可欠であることから、毎年16歳以上の市民を対象として、無作為に約3,000名を抽出し、調査を実施しているものであります。

次ページ以降につきましては、147ページにあります市民意識調査票の22の設問に対する各評価でありますので、後ほど、ご一読いただければと思います。

ページはとびますが、96、97ページをお開き願います。

今年度の調査結果を踏まえた、市民意識調査結果のまとめとなります。

97ページの、「根室市民の住み良さ、定住希望に関する意識の推移」についてであります。上段の表のとおり「住み続けたい」という定住意向は、平成28年度調査以降、僅かではあります。増加傾向にあります。

これは下段の表にあるとおり、居住年数が長く、高齢者ほど割合が高い傾向であり、こちらに記載はありませんが、第2期根室市創生総合戦略に掲げた子育て支援の取り組みとして、小中学校の給食費無償化や出産支援事業、子ども向け屋内遊戯施設「わんぱーく」の開設、乳児おむつ用品購入券、18歳以下医療費無償化など、子育て世帯への経済的負担軽減対策について一定の効果があつたものと捉えており、定住意向について向上したと考えているところであります。

次に102ページをお開き願います。

成果目標及びKPIの動向について、説明いたします。中段の四角で囲ってあります12項目につきましては、総合戦略策定時の基準となった指標値から、今年度調査で上昇が確認された指標となっております。

105ページになりますが、中でも、4「子育て環境や支援に満足している保護者の割合」については、計画策定時7.7%から令和2年度調査時10.6%、本年度調査時17.4%へと上昇しているほか、5「乳幼児や子どものための福祉施策の状況」については、5.7%から10.3%へ、本年度調査時13.8%へと着実に上昇傾向にあり、子育ての環境や支援などの評価が高くなっているところであります。

市民の自由意見としては、「市で取り組んでいる子育て支援についての「がんばり」が伝わる。」など、感謝の声もあり、また、支援の継続や「わんぱーく」の充実を求める意見も多数見受けられるところであります。

続きまして、103ページ中ほど、今年度の調査で低下が確認された指標についてであります。健康状態、医療機関、町会行事や地域イベント、高齢者福祉、地域の緑の豊かさ、公共交通関連、森林景観、買い物の利便性関連、まちづくりへの参加意識が低下しており、過去の調査と同様に不満足が確認されていることから、より一層の重点的な対応が求められている分野であると考えられます。

特に、森林景観に関しては、太陽光発電や風力施設等による景観の懸念が、自由意見から伺えるところであります。

先ほどお聞きいただいた105ページには、市民意識に関する指標の増減傾向を掲載しておりますので、ご確認いただければと思います。

次に、127ページをお聞き願います。

こちらは、アンケート調査結果から、第2期根室市創生総合戦略に対する意識調査に関連する項目や自由意見を抜粋して、市民意識を整理・まとめたものであります。

128ページをお聞き願います。

まずは、(1)「ひと」と「しごと」を呼び込み、稼げる仕組みづくりと安定した雇用、新しい人の流れを作る。(基本目標1)に関する項目についてです。

当市の課題は、人口減少、少子高齢化、雇用の場の確保などが挙げられますが、特に、基幹産業である漁業や水産加工業の低迷が大きな影響を与えており、ロシア200海里内サケマス流し網漁に加え、近年のサンマや秋サケの不漁の影響、新型コロナウイルス感染症拡大による経済的影響、ロシアによるウクライナ侵攻など、市民生活に対して不安を抱いている傾向が伺えます。

こうした状況にあって、漁業に関しては、ベニザケ養殖技術開発や、ホタテ貝種苗放流など、「育てる漁業の推進」を図っているところでありますが、一方、水産業を取り巻く環境悪化を背景として、より即効性の高い企業誘致に対する期待が高まっているほか、観光振興や移住も含めた交流人口の拡大、新たな特産品の開発など、継続して取り組む必要のある課題も見られるところであります。

次に、(2)住み続けられる「安心」と「支え合い」の地域を守り、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる。(基本目標2)に関する項目についてです。

当市における児童・生徒の学力の向上が課題となっていることから、ICTの活用や外国語指導助手の配置、通級教室の開設等の取組を実施しているところでありますが、これらの取組の成果検証を適宜行い、より効果的な事業へ継続・発展させていくことが重要であります。

子育て対策としては、①出産支援金、②新生児用おむつ、③3歳から5歳児の保育料、④小中学校の給食費、⑤高校生へのパソコン貸与、⑥子ども向け屋内遊戯施設の開設、⑦18歳以下の高校生までの子ども医療費無償化、0～2歳児保育料の減免制度の7つの支援施策を「第2期根室市創生総合戦略」に位置づけ実施してきたものであり、市の施策に対する一定の良い評価が見られたところであります。

なお、医療環境に関する不安は多く、小児科医院の閉鎖、市立病院の病床数縮小などにより、市民の不安は高まっており、医療・介護人材の確保と育成について、その対策は急務であるとの指摘が多くあったところです。

一方、自由回答からは、市外に通院しなくても、市立病院にとっても親切に診療していただける良い医師がいるので、体に不安を抱えるお年寄りにとって、もっと安心できる病院だというアピールも必要ではとのご意見もあったところです。

次に、(3) みんなで実践する「市民協働」を推進し、時代にあった地域をつくり市民サービスを維持する。(基本目標3)に関する項目についてです。

当市は、人口減少や産業経済の停滞が続く中で、ふるさと納税制度の活用による成果は非常に大きく、総合戦略の計画的で着実な推進に大きく寄与しているものでありますが、さらに、若者から高齢者まで、市内経済や市民生活の向上に向けた効果的な施策立案を期待されており、市民ニーズを十分に把握する必要があります。

自由意見からは、「移住したくなるようなまちの整備」のほか、「当市の景観・フィールドを活かした、オートキャンプ場の設置」や「市民や移住者、観光客が集える施設の整備（サウナ・温浴施設）」など、まちの賑わいづくりへの積極的な投資を求める意見が多くあったところであります。

その他、公共施設や娯楽施設などに関する要望、生活環境への要望に関する内容が多く、また、市の広報やSNSをはじめとする情報発信のあり方についても課題があるとの意見も見られたところであり、施策効果を把握するためには、こうした各種施策の周知を図ることが重要であります。

以上、簡単ではありますが、市民意識調査の結果報告といたします。

●石垣市長

ただいま事務局から説明のありました「委員の改選」、「人口動態分析」および「市民意識調査報告書」については、委員皆様に対する報告事項としてご承知おきいただければと存じます。

3. 協議事項

協議事項1

●石垣市長

それでは、次に協議事項の(1)第2期の「根室市創生総合戦略」における取り組みの効果検証について、事務局から説明願います。

基本目標1

●事務局(川崎室長)

根室市創生総合戦略における令和4年度の取り組みの効果検証についてであります。11ページをお開き下さい。

基本目標の1つ目は、「ひと」と「しごと」を呼び込み、稼げる仕組みづくりと安定した雇用、新しい人の流れをつくるであります。

12ページをご覧ください。数値目標については、

20～39歳女性の人口を4年で43人減少を抑制し、1,655人確保、生産年齢人口割合は4年で54.1%とし0.3ポイント向上、人口減少率は4年で2.00%とし、0.44ポイント向上と設定し、達成状況については記載のとおりであります。

続きまして、13ページをご覧ください。有識者会議における検証事項についてであります。

こちらについては、委員の皆様からご意見を頂き、検証頂いた結果を記載するものとなっております。

次に具体的な施策とKPIの達成状況について、説明させていただきます。

基本目標1に関する、具体的な施策とKPIの達成状況については、14ページから29ページに記載しておりますが、以下ポイントのみご説明いたします。

14ページをご覧ください。

初めに、経済・雇用対策の推進、農林漁業の持続的な発展及び担い手対策の推進と若年就業者の定着化促進についてであります。KPIと達成状況については記載のとおりであります。本市の基幹産業である水産業の分野では、「生産基盤の強化」が図られ、つくり育てる漁業の推進により、沿岸漁業における生産量は、順調に増加しております。

15ページをご覧ください。これらの達成状況から内部検証結果については、「概ね順調に進んでいる」と評価し、新たな研究の検討を含め、今後もつくり育てる漁業の推進に努めることが必要であると捉えております。

17ページをご覧ください。次に、労働力不足解消のための雇用のミスマッチ解消など需給不均衡の改善についてであります。

人口1000人あたりの就職者数は増加し、季節労働者数も減少、なでしこバンク登録者の就職などKPIの達成状況から、内部検証結果については、「概ね順調に進んでいる」と評価したところでありますが、人材確保対策として、本市の産業機能として不足する分野での企業誘致活動の推進などによる、新たな雇用創出が必要であると捉えております。

19ページをご覧ください。次に、商工業後継者の不足に伴う事業承継のための支援等の充実についてであります。「概ね順調に進んでいる」と評価しましたが、空き店舗への出店支援などの事業制度の周知や、事業承継支援等の充実を図り、地域人材の確保に繋げてまいりたいと考えております。

21ページをご覧ください。次に、UIターン者向け支援の充実による企業促進と労働力の確保についてであります。UIターン就職者数の状況等から「概ね順調に進んでいる」と評価しましたが、引き続き、若い世代のUIターン者の促進を図るためにも、就学金の返還支援などの財政支援などにより、労働力の確保を図ってまいります。

23ページをご覧ください。次に、産学官金の連携及び農商工連携と6次産業化の促進についてであります。連携協定を結んでいる東海大学や北海道科学大学等との共同研究による商品開発や新産業の創出など産学官連携の取組みが進んでおり、「順調に進んでいる」と評価したところであり、引き続き取組みを推進していく考えであります。

26ページをご覧ください。次に、交流人口の拡大、世界に誇る自然、歴史、食の魅力を発信する観光プロモーションの強化についてであります。外国人宿泊客数も回復基調にあり、「概ね順調に進んでいる」と評価しましたが、引き続き、「絶景」と「食」の魅力の発信強化により、観光客誘致の取組みを推進していく考えであります。

28ページをご覧ください。次に、長期滞在者など交流人口の誘客強化と本格移住の促進についてであります。KPIとその達成状況から、「概ね順調に進んでいる」と評価しましたが、今後も、医療従事者、介護人材などの青年層の移住を促進する必要があると捉えております。

以上で、基本目標1の進捗状況について説明を終わります。

●石垣市長

それでは、ただいまの説明を踏まえまして、検証を行っていきたいと思います。

基本目標1は、主に産業・雇用に関する分野であります。ご意見などありましたら、伺っていきたいと思います。よろしく申し上げます。

○石井（至）委員

概ね順調ということで結構だと思うんですけども、事業内容が全般的におとなしい印象がございまして、もっと開き直った方が良いと思います。

今となっては、根室市はふるさと納税で横綱な訳で、ふるさと納税を活用して、例えば、根室市は根室市の中ですべて業務を行っている訳ですが、三重県の志摩市ですとふるさと納税の中間事業者の選定条件として、市内に事業所を構えているということと、地元住民を雇用することとしたことで、企業誘致と雇用を生み出している例があります。

根室市はふるさと納税で成功しているので同じことをする必要はないと思いますが、逆にふるさと納税で成功しているノウハウを活かして、ふるさと納税のインキュベーションセンター（起業家の育成や新しいビジネスを支援する施設）を作るべきだと思います。

ふるさと納税に関する新しい仕事、起業を促す。

例えば、ふるさと納税が簡単にできるアプリを開発する企業だとか、ふるさと納税のPR動画を作る企業とかを呼び込む。

インキュベーションセンターを作っている自治体は五万とありますが、どこも成功した例はないんです。

世界的に成功しているのは、パリにあるステーションFというところがあって、そこは半導体会社の実証実験が出来たり、ビジネスに内容を具体的に紹介したりするなどしています。企業にとってメリットが無いと呼び込めなくて、ただ単に「オフィスを無料で貸します」とか「税金をサポートします」とか「登記をサポートします」では呼び込めないです。

さらにインキュベーションセンターがあると婚活も解決すると思います。根室市は子育て世代の評価が高いので根室市に移住したい若者は多いと思いますが、仕事がないのでインキュベーションセンターがあればセンター自体の事務だったり、自分で新しい仕事を作ったりなど、働き口があれば引っ越してきて恵まれた環境で子育てしながら仕事もできると思います。

医療関係でいきますとリモート診療を取り入れたりとか、観光関係でいきますと根室というか北海道全体的の話なんですけど、広域観光なんですよね。東京や大阪からわざわざ根室だけに来て帰るってことは多分なくて、釧路に寄って札幌に寄って帰ろうかっていうパターンが多いと思います。

今は返礼品に無いんですが、釧路市では、釧路市に1泊さえすれば道内の他都市でも利用できる旅行クーポンの返礼品導入を考えています。そういう広域観光もふるさと納税と絡めることで、交流人口が一気に伸びると思います。

また、絶景と食の話ですが、友知方面にスペインのサンセバスチャンにある三ツ星レストランと雰囲気がすごく似ている場所（飲食店）があります。そこのレストランと提携して共同のレシピを考えると根室の料理に活かすとか、そういった様に、ふるさと納税の思い切った使い方を企画できれば、根室市はもっと成長すると思います。

●石垣市長

最近、韓国からふるさと納税の視察に来まして、総務省が「根室市を視察したら」と後押ししていただいたおかげで、来週にもう1件来る予定もあります。

○関委員

東海大学の清水キャンパスなんですけれども、昨年度から人文学部が出来まして今は2年生が最高学年になります。それで3年生からフィールドワークを計画しておりまして、今年の夏に試行でコンブ漁家に泊まり込んで数日間コンブ漁の体験をさせていただきました。こ

ういった仕組みを他の大学生や高校生、一般の人にも広げていければ良いのかなと思います。

理由としては、初めて北海道に来た当校の学生たちは昆布がどうやって作られているかを知らなくて、「これだけ大変な作業だったら高価なもの当然だよな」と感想を言っていたり、すぐさまSNSにアップして、それを見た体験に参加しなかった学生からも「自分も体験したい」との反応があって、興味を持った学生が増えています。

単に見るだけの観光ではなく深い体験ができて、それを観光客が発信する、根室市の広報マンになってもらう活動をして欲しいと思います。

○石井（吉）委員

1点だけ気になることがあります。

雇用の場をつくる時の一番のターゲットは女性だと思うんですけども、直近の女性の人口動態を見ると減少しています。もっと**女性の定住**につながる部分について課題があると感じます。

水産業が中心だと男性に偏る課題があって、意識的に女性の雇用を考えなければならぬ。例えば水産業でも陸上養殖ですと女性の雇用も十分可能と言われておりますので、**女性の雇用をどう作っていくかという活動が現状弱い**と感じます。まずは女性に残ってもらわないと人口減少に歯止めがかからない。

○浄土委員

観光の点で行けばネイチャークルーズを実施していますが、コロナの影響で減少した外国人観光客がまだ戻ってきていない状況です。

関委員のお話にあった昆布の体験も過去に試みてはおりますが、学生に来ていただいてちょっとした体験する仕組みでは、漁業者も忙しくて受け皿がない。アルバイトの様な長期に渡る体験が可能であれば漁業者も受け入れてくれると思います。

次に女性の雇用についてですが、漁協も人材確保が難しい状況です。

漁業者は個人事業主なので漁協の勤務時間や土日も関係なく、その漁業者と一緒に仕事をするものですから、給料はそこそこもらえれば良くて休みはしっかり取りたいという若者の考えにマッチせず、すぐ辞めてしまいます。このままでは、**漁業者の後継者不足よりも先に漁協が成り立たなくなるおそれがあります。この問題を市も一緒になって考えてもらえればと思います。**

○木村委員

先ほどもありましたが、女性の活躍が非常にポイントだと思います。

水産業に関しまして、育てる漁業について非常に進んでいるところは良いところだと思います。

あとは食品加工業については、作業の簡易化、人手不足、技術継承などでいろいろな地域で苦勞されていますが、四国の会社で新しい**ロボット技術に取り組む所**が出てきています。

その新しい技術を使った水産加工業がもっと進むと**性別によらない仕事環境**ができるのかなと思います。

もう一つ、リモート医療のお話がありましたがICT環境を整えるとか、予防医療や健康相談で市民の健康をサポートできれば不満を解消できるのではと思います。

●石垣市長

それでは石井吉春先生に、全体の評価をいただければと思います。

●事務局（川崎室長）

内部評価としては「Bの概ね順調に進んでいる」でご提案させていただきます。

○石井委員

基本的にはそれでよろしいと思います。

今出ました皆さんの意見についてコメントを記載していただければと思います。

●石垣市長

ただいま、石井先生からご意見をいただき、基本目標1の評価については、「B おおむね順調に進んでいる」と評価させていただきますが、皆さんいかがでしょうか。

※【委員了承】

基本目標2

●石垣市長

それでは、引き続き、基本目標2について、事務局から説明願います。

●事務局（川崎室長）

30 ページをお開き下さい。

基本目標の2つ目は、住み続けられる「安心」と「支え合い」の地域を守り、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるであります。31 ページをご覧ください。

数値目標については、人口減少率は4年で2.00%とし0.44ポイント向上、年少人口割合は4年で10.2%とし0.2ポイント向上、合計特殊出生率を現状値である1.67以上の水準維持と設定し、達成状況については、記載のとおりであります。

下段をご覧ください。有識者会議における検証事項についてであります。

こちらについては、委員の皆様からご意見を頂き、検証頂いた結果を記載するものとなっております。

次に具体的な施策とKPIの達成状況について、説明させていただきます。

基本目標2に関係する、具体的な施策とKPIの達成状況については、32 ページから42 ページに記載しておりますが、以下ポイントのみご説明いたします。

32 ページをご覧ください。

初めに、ソサエティ5.0時代に向けた人材育成、良好な教育環境の整備と義務教育の充実についてであります。KPIと達成状況については記載のとおりですが、これらの達成状況から内部検証結果については、「概ね順調に進んでいる」と評価し、小中学校への1人1台のICT機器整備など、良好な環境を整えたことが、子どもたちに個別に最適化された質の高い学びを提供でき、学力向上につながっていると捉えております。

34 ページをご覧ください。次に、子育て・少子化対策の推進、出会い、結婚、妊娠、出産、育児に関する機会や相談、支援体制の強化についてであります。

KPIと達成状況から、内部検証結果については、「概ね順調に進んでいる」と評価したところでありますが、引き続き、子育て支援体制の強化を図ることが必要であると捉えております。

36 ページ、中段をご覧ください。次に、子ども医療費助成など子育て世代の経済的な負担軽減の推進についてであります。下段をご覧ください。K P I とその達成状況は、記載のとおりであります。それを踏まえ、37 ページをご覧ください。内部検証結果は「順調に進んでいる」と評価したところであり、引き続き、子育て環境の充実を図る取組みを検討する必要があると捉えております。

39 ページをご覧ください。次に、保育施設の整備と多様な子育て支援サービスの充実についてであります。内部検証結果は「やや遅れている」と評価したところであり、引き続き幼稚園教諭や保育士の人材確保に努めていく考えであります。

41 ページをご覧ください。次に、周産期医療と小児医療体制の整備、安心して子どもを産み育てられる周産期医療と小児医療体制の整備についてであります。内部検証結果は「概ね順調に進んでいる」と評価したところであり、引き続き市民が安心して出産、子育てできる環境づくりに努めていく考えであります。

以上で、基本目標 2 の進捗状況について説明を終わります。

●石垣市長

それでは、ただいまの説明を踏まえまして、検証を行っていきたいと思います。

基本目標 2 は主に、子育て・少子化対策に関する分野でございますが、ご意見などありましたら、伺っていきたいと思います。

○木村委員

I C T 教育は様々な分野に関連するため、これから先の世代を担うこどもたちには非常に大事なことなので、さらに進めていただければと思います。

それで、こどもたちがパソコンを使うようになって環境は整ってきていますが、それをどう活かすかを整理する必要があるのかなと思います。そのためには、先生方が積極的に活用していくための協議が必要かと思いますが、我々の大学でも協力できることがあればと思います。

もうひとつ、大人の視線が非常に大事だと思います。こどもたちが新しいことに取り組む際に応援する大人、親御さんが必要だと思います。そのためには、**こどもだけではなくて大人の皆さんにも I C T に親しむ、学ぶ場を作れば良い**のかなと思います。

●石垣市長

先日、北斗小学校の 6 年生全員の発表を聞いてきたんですが、グループ毎にまちづくりについてタブレットで発表するんです。すごいなと感じました。

○多嶋委員

幼稚園の範囲でしかお話できませんが、I C T、大事なものだと思います。

また、こどもたちの心の成長に関しましては、コロナが終わりましてマスクが取れたので表情で訴えるこどもたちの成長が全然違う形で見ることができています。

ただ、現場としては**先生が少ない**ということと、浄土委員も先ほどお話していましたが、**若い方の価値観が変わってきている**ものですから、幼稚園も労働時間が変則的で**辞めてしまう**人もいるのでその辺をどうやって改善していけるのか。

そして、女性、男性を問わず活躍しておりますが、おむつを取り替える部分について男性がかかわることに抵抗感をお持ちになる保護者もいらっしゃいます。

また、昔ですと 3 歳頃にはおむつが取れるお子さんが多かったんですが、今は 4 歳になっ

てもなかなかおむつが取れないこともありまして、そうなるとう男性の保育士を4歳児の担当にしても良いものなのか難しい状況です。

子育てをされている方にとって幼稚園というものはすごく良い場所になっておりますが、**根室はまだまだ結局**はお母さんがお仕事をお休みして対応している事が多く、**お母さんに負担がかかっている**事が問題になっているところと思います。

○木村委員

先ほど申し上げ忘れましたが、ICTを進めるためにもネガティブな面にどう向き合うかが大事なところだと思います。

SNSの使い方とか向き合い方についても子どもたちに教育するとか、こどもたちから相談を受けたら大人がどう対応するのかを啓発していくことが必要だと思います。

●石垣市長

それではご意見を頂きましたので、基本目標2について全体の評価をしていきたいと思ひます。

各施策の状況を踏まえて、石井吉春先生は、どのような評価をされますでしょうか。

○石井（吉）委員

「B 概ね順調に進んでいる」という評価でよろしいと思ひます。

●石垣市長

ありがとうございます。ただいま石井先生からご意見をいただき、基本目標2の評価については、「B 概ね順調に進んでいる」と評価させていただきますが、皆さんいかがでしょうか。

○石井（吉）委員

1点だけ、この部分は少し**環境側面のことを入れる時代になってきている**ので、そのあたりを少し研究して、具体的な報告を今後入れていただくということだけお願いします。

※【委員了承】

基本目標3

●石垣市長

それでは、引き続き、基本目標3について事務局から説明願ひます。

●事務局（川崎室長）

43 ページをお開き下さい。基本目標の3つ目は、みんなで実践する「市民協働」を推進し、時代にあった地域をつくり市民サービスを維持するであります。

44 ページをご覧ください。数値目標については、継続的に市を支援する寄附者件数を4年で90万件増加、まちづくりへ参加したいと思ひする市民の割合を4年で85.0%とし、13.3ポイント向上と設定し、達成状況は、記載のとおりであります。

下段をご覧ください。こちらは、有識者会議における検証事項についてであり、委員の皆様からご意見を頂き、検証頂いた結果を記載するものとなっております。

次に具体的な施策とK P Iの達成状況について、説明致します。

基本目標3に係る、具体的な施策とK P Iの達成状況については、45 ページから58 ページに記載しておりますが、以下ポイントのみご説明いたします。

45 ページをご覧ください。初めに、コミュニティの維持・活性化、市民活動団体の育成や市民活動の組織化、ネットワーク化の支援並びにシビックプライドの醸成についてであります。K P Iとその達成状況から内部検証結果については、「やや遅れている」と評価し、改善するためには、市民のまちづくりへの参加意識を向上するために、市民活動の活性化につながる取組の推進を図る必要があると捉えております。

47 ページをご覧ください。次に、多様な主体がまちづくりに関わる市民協働・市民参画の推進についてであります。K P Iと達成状況から、内部検証結果については、「やや遅れている」と評価したところでありますが、市民がまちの未来を創るという当事者意識の醸成を図る必要があると捉えております。

49 ページをご覧ください。次に、地域と多様な関わりを持つ関係人口の創出・拡大についてであります。K P Iとその達成状況から、内部検証結果は「順調に進んでいる」と評価しました。ふるさと納税については、令和4年度においても、全国から83万人もの応援をいただき、関係人口の創出と拡大を図ることができました。この成果を地方創生に最大限に活かし、次なる戦略を進めていきたいと考えております。

51 ページをご覧ください。次に、地方創生の計画的な推進、ふるさと納税制度の推進と寄附金を活用した地方創生についてであります。K P Iとその達成状況から、内部検証結果は「順調に進んでいる」と評価しました。今後も、ふるさと納税制度を根室市の発展資源として捉え、根室市の創生を推進する考えであります。

56 ページをご覧ください。最後に、広域連携の推進、広域ネットワークの構築についてであります。中段にあります、K P Iとその達成状況から、内部検証結果は「概ね順調に進んでいる」と評価したところでありますが、引き続き、市内小・中学校や義務教育学校、高校へ整備したI C T環境を活用し、連携協定を締結している大学とのオンラインによる教育活動などの新しい学び方や教職員研修による連携を推進する考えであります。

以上で、基本目標3の進捗状況について説明を終わります。

●石垣市長

それでは、ただいまの説明を踏まえて、検証を行っていききたいと思います。

基本目標3は、主に市民協働・地域づくりに関する分野でございますが、ご意見などありましたら、伺っていききたいと思います。

○夫馬委員

これまでも皆さんがお話されたとおり、ふるさと納税については非常に進んでいるなと思います。少しまちづくりというテーマに関してコメントできればと思います。

多くの市民の方が人口減少について不安や期待を感じるコメントが見受けられますが、当然、多くの方は減っていく計画よりも増やす計画の方を望んでいるんだと思います。

ただ、「減っていても、市民の皆さんが生き生きできる社会を作れますよ」という像が無い限り明るい未来が描けないのかなと思います。そういった像があれば市民の皆さんも協力しようというマインドが生まれるんだと思います。

私も今日東京から来ていますが、東京の大企業を中心として地域に興味を持っています。多くの企業は、自分たちの国や社会を守っていくためにも、一極集中で仕事をしていけばい

いやという考えから、地域にもお客様はたくさんいらっしゃるの、自分たちも地域に出ていこうという動きが目立ちます。

その時に、良い自治体とタイアップできるかという、課題、目指したい像と現状との差が課題になって、では、企業として何ができるのか、そういった方向性を考えるうえでも像が必要になってきます。

住民の街づくり参加については域内の人口が減少した中でも、根室市はほかの自治体ができないことを先進的に取り組んでおられるので、皆さんなら何かできると期待しています。

○本間委員

何度も申し上げていますが、**次なる戦略が見えていない**。今の夫馬委員の「像」というものの、**将来像、イメージが描き切れていない**と思います。

ふるさと納税がこれだけ実績を伸ばしているにも拘わらず、なぜ、人口が増えないのか？という結果に如実に表れていると思います。

こういう事をしていけば移住者が増えるというイメージを打ち出す必要があると思います。

○廣田委員

「なぜ、根室市はふるさと納税で成功できたのか」を分析してはどうでしょうか。

●石垣市長

ふるさと納税の運用につきましては、総務省としても理想的な対応をしていると判断しているため、先ほどの韓国の方々に根室市を紹介してくれたんだと思います。

その事が、自分たちにとってどの様な財産になっているのかということですね。

○本間委員

戦略を持って人を呼んでいるかどうかという点でいきますと、(愛知県)津島では1年間、この街の宝を見つけてくださいという名目で人を呼んで、島の宝を見出す。

それが起業に結び付き、定着が生まれ、それによる雇用が生まれていくという良いビジネスモデルがあるので、そういった具体的な戦略を持って臨まなければいけないと思います。

●石垣市長

現在、そういった事を含めた「根室市公共施設グランドデザイン構想」というものを取りまとめております。

それでは、基本目標3について、全体の評価をしていきたいと思います。各施策の状況を踏まえまして、石井吉春先生はどのような評価をされますでしょうか。

○石井(吉)委員

市民との共同参画については課題がありますが、ほかの点についてはかなり良いので、トータルで言えば「B 概ね順調に進んでいる」という評価でいいと思います。

ただ、根室市は行政が率先して外から人を呼んでくるという部分については控えめなのかも知れないので、交流につながる取り組みを考える必要があると思います。

●石垣市長

ありがとうございます。基本目標3については、課題があるものの「B 概ね順調に進んでいる」という評価でしたが、みなさんよろしいでしょうか。

※【委員了承】

それでは、以上で基本目標1から基本目標3まで、全ての外部評価をいただきました。すべて「B 概ね順調に進んでいる」という評価になりました。

協議事項2

●石垣市長

続きまして、協議事項の根室市創生総合戦略の一部改訂について、事務局より説明願います。

●事務局（川崎室長）

根室市創生総合戦略の一部改訂について説明いたします。

今回の改訂は、先程ご報告いたしました市民意識調査結果並びに令和4年度の実施の検証結果を踏まえ、協議いただくものであります。

資料1、第2期根室市創生総合戦略（一部改訂案）の10ページをご覧ください。本総合戦略の着実な実行による地域課題の解決に向けた取組みを推進するため、3つの重点プロジェクトを掲げております。

その一つ目は、安定した雇用、新しい人の流れをつくる「チャレンジ」であり、取組む施策を下段に記載しております。点線で囲んだ施策のうち、黒点1つ目に記載しておりますが、沿岸漁業資源の維持・増大が図られ、安定した漁業経営が確立するためにも、引き続き、つくり育てる漁業の推進を図ることが必要であると考えております。

こうした点を踏まえまして、ページが飛びますが、14ページ中段になりますが、具体的な事業にトラウトサーモンの海面養殖技術開発を研究する取組みを新規事業として追加させていただいております。

次に、17ページをお開き下さい。本市では、看護師をはじめとする医療従事者や介護従事者が慢性的に不足している状況にあり、そうした人材確保対策は急務であり、最大の課題であります。

このことから、人材確保に係る新規事業として、市内医療機関における看護師等の不足の解消及び定着を図ることを目的に、市内の医療、介護施設等に就職した看護師、介護従事者等、従事者に対する就業準備助成金の支給、採用した事業者に対する定着支援助成金を行うほか、既に在職する従事者に対する勤続奨励金を支給する取組みを追加しております。

ページ戻りまして、11ページをご覧ください。

重点プロジェクトの2つ目は、若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる「チェンジ」であります。

本市では、これまで、子育て対策として、①出産支援金、②新生児用おむつ、③3歳から5歳児の保育料、④小中学校の給食費、⑤高校生へのパソコン貸与、⑥子ども向け屋内遊戯施設の開設という6つの支援施策を実施して、一定の評価をいただいておりますが、更なる子育て世帯への経済的負担の軽減策などにより、子育て環境の整備を図ることが必要であると捉えております。

こうした点を踏まえて、ページが飛びますが、24 ページ中段以降になりますが、具体的な事業に新規事業として、これまで取組んできた子育て支援に係る6つの無償化支援に加え、7つ目となる支援施策として18歳以下の高校生までの「子ども医療の完全費無償化」を実現するとともに、従来の「3～5歳児・保育料無償化」に加えて、新たに「0～2歳児・保育料の減免制度」を創設するほか、遠距離通学する高校生の交通費を一部助成や、18歳以下の市内バス路線の無償化など、子育て世代の経済的な負担軽減を図り、子育てしやすい環境の充実に努めて参ります。

ページ戻りまして、11 ページ中段以降をご覧ください。

重点プロジェクトの3つ目は、時代にあった地域をつくり、市民サービスを維持する「コラボレーション」であります。

本分野、人材育成分野になりますが、先程の事業検証からもあまり活発ではない状況と捉えております。その一方、ふるさと納税は好調であり、引き続き関係人口対策に取り組んでいく考えであります。本市を取巻く環境、人口減少や産業経済の停滞が続く中で、ふるさと納税制度の活用による成果は非常に大きく、総合戦略の計画的で着実な推進に大きく寄与しております。

こうした点を踏まえ、ふるさと納税制度を根室市の発展資源として、目的別に設置した地方創生関連基金への計画的な積み増しと積極的な活用により、根室市創生を推進して参りたいと考えております。

以上、ご説明したとおり、事業の追加、時点修正を行ったところであります。追加、時点修正した箇所については、14 ページ以降、朱書きで加筆させていただいており、ご承認をいただきましたら、総合戦略に反映して参りたいと考えております。

また、次期総合戦略を見据え、カーボンニュートラルなど夫馬委員にアドバイスをいただきながら、知見を深めていきたいと思っております。

さらに、市民意見として、「移住したくなるようなまちの整備」のほか、「当市の景観・フィールドを活かした、オートキャンプ場の設置」や「市民や移住者、観光客が集えるサウナ施設等の整備」など、まちの賑わいづくりへの積極的な投資を求める意見が多くあったことから、こちらについても調査研究して参りたいと考えております。以上です。

●石垣市長

ただいま、事務局から根室市創生総合戦略の一部改訂について説明がありました。何かご意見、ご質問などありましたら発言願います。

○夫馬委員

今回追加される事業については、必要な施策かなと感じています。

一方、転入を増やすというものより転出を減らすという施策になっていると思いますので、転入を増やす意味では違った施策が必要になってくるのかなと思います。

もうひとつ、10 ページに根室市が誇る絶景・食のPRという言葉がありますが、僕がたまたま北海道の「食絶景北海道×ゼロカーボンアワード」の審査員を担っておりますが、根室市さんから応募が無かったと記憶しております。

根室市にとっての一つのブランドになるかと思っておりますので、ぜひ、根室市さんからの応募をお待ちしております。

●石垣市長

根室市は昔から言われておりますが、宣伝が下手だと。

私の知り合いにお子さんがいる転勤族の方がいらっしゃいますが、札幌に転勤が決まりまして、子育て支援が受けられなくなるため根室市から転出したくないとのお話をいただきました。このような根室市の取り組みが全道的に全然知られていないことも課題だと共有しております。

特になければ事務局案のとおり承認してよろしいでしょうか。

※【委員了承】

その他

●石垣市長

それでは全体をとおして、石井吉春先生、石井至先生から何かありますでしょうか。

○石井（吉）委員

以前から比べると総合戦略もどんどん進んできて、市役所の職員の皆さんの意識が大きく変わったんだという事が一番大きな変化だと思います。

根室市の良いところをどうやって外部に発信するのが課題だと思います。

特に、女性を外から呼ぶときにメリハリを利かした取り組みを行って見ても良いと思います。

市民生活の部分はだいぶ充実していますので、やりすぎない様にしないと持続性が無くなるリスクがありますので、違う目線で交通面とかほかの課題を整理して、重点的に取り組むことを検討していただければと思います。

人口面は厳しいかも知れませんが、施策面についてはかなり成果を上げておりますので、自信をもって進めていただければと思います。

○石井（至）委員

ふるさと納税をビジネスとして人を呼ぶ取り組みが必要なんだと思います。

韓国からも視察に来ているという話もありました。良いタイミングだと思いますので、何か思い切ったことが出来ればと思います。

○廣田委員

人口動態の11ページの男女20歳台の転入転出先の部分ですが、(グラフの)その他の数値が86人と一番大きいんですが、その分析はされていますか。

●事務局（渥美主査）

私の方からご説明させていただきます。

こちらの数値につきましては先ほどのご説明でも申し上げましたとおり、経産省のRESASというデータを用いて分析を行った結果でございます。

分析結果の表示の仕方の関係なんですけれども、上位の都市については都市名が表示されますが、それ以外の1人ずつの転出先はまとめて「その他」という表示がされます。

ですので、86人が一つの場所に集中して転出しているのではなくて、それぞれの地域にお一人ずつ転入、転出されまして、その結果、その他86人という表記をさせていただいているところであります。

○**廣田委員**

この数字には、外国人実習生は入ってないですか。

●**事務局**（渥美主査）

こちらの数字には外国人実習生は入っておりません。

○**石垣市長**

それでは以上で会議を終了いたします。

総合戦略に基づいた事業を着実に推進するため、引き続き委員皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。本日は、ありがとうございました。

（了）